

北海道乳幼児療育研究会 第37回研究大会 (2023, 10, 14~15)

ミニ講話「自分が取り組んできた療育、大切にしたい療育」

『 発達の評価に基づいた療育で、大切にしていること、大切にしてほしいこと 』

社会福祉法人麦の子会  
金澤 俊文

1

○私の歩んできた地域での出会い (ちょっと自己紹介...)

**大切だと思うこと... (発達評価の観点から)**

児童相談所地域巡回支援	身近な地域で子育てする。 貧困って身近にある、子どもの権利は...
児童入所施設支援	心の育ちが大切。 発達評価の大切さ。 地域で障害を理解して欲しい、貧困の存在、共に育つ。
地域療育支援 (巡回・親子支援・発達評価) (乳幼児療育研究会発足) (北海道早期療育システム開始 - 2・3次圏専門支援)	療育から発達支援に、 困り感の理解と発達評価の大切さ。 家族(親・きょうだい)支援の大切さ、 機関連携が大切。 システム構築の大切さ(システムは残る)、 専門性の向上と自己研鑽。
地域支援(地域中核センター)	発達支援(本人・家族・地域)は子育て、 安心感(信頼感)の獲得。 自信をもって取り組む。 相談の大切さ、人材育成、居場所、共生。
(自宅での生活)	(共生、幸福、余暇)

2

○エピソード: 発達支援(療育)の大切さ

OA町での肢体不自由児親子との出会い、家族の思いに寄り添う支援...

早期支援体制と支援の専門性が不十分で、孤立していた親子への支援の大切さ。  
:「北海道のどこに生まれても、必要な時に、必要な支援が受けられるシステム作り」  
→ 早期発見・対応、機関連携、システム化、発達評価技能の向上、(医療モデル)。

OB町での重度の障害児親子との出会い、保育園での関わり(受け入れ)、...

特別なニーズをもつ子どもであっても、当たり前地域で仲間とともに、生活したい。  
:「支援は特別なニーズ対応だけではない」「困り感を理解し、それに応えること」「地域の園に合うことが自然」「自己研鑽は必要」「地域の人・機関で知恵を出し合う」  
→ 発達評価、機関連携、支援技能研鑽、家族支援、(医療モデル→生活モデル)。

OC市での専門支援を受けている子どもとの出会い、自信の無い表情が...

地域で継続支援を受けるが、周りへの関わり少なく、困った時主張しない。  
:「得意(文字、数字の関心)をみつけ支援にどう生かすか?」「提示課題は行方が、自ら選択、主張することの大切さ?」「困り感は...」  
→ 発達評価(アセスメント、課題設定)、自己肯定感、機関連携、生活モデル。

3

(療育)発達支援における地域の現状と課題

- ①早期発見体制の拡充による発達支援開始時期の低年齢化
- ②支援対象児の拡充と支援内容の複雑化
  - ・健診や相談体制の拡充から、支援を要する子どもの増加、かつ虐待や愛着障害等を背景とする子ども、発達の気になる子どものニーズの増加等。
- ③親(親子)の支援ニーズの多様・複雑化
  - ・色々な背景をもつ子ども、未成熟な・ストレスを抱えたり、心理的ケアを必要とする保護者、複雑な家庭環境で育った保護者やきょうだいが増えている。
- ④一機関ではなく、複数機関での対応(連携)の必要
- ⑤地域間及び機関間の支援体制及び内容での格差が存在
- ⑥将来を見通した支援システムの構築の不十分さ

↓

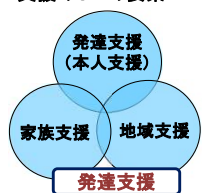
多面的発達評価・家族支援・機関連携・地域支援システム・専門的技術の向上

4

### 「療育」から「(児童)発達支援」へ

**発達支援:子どもへの支援**  
 発達の支援を必要とする子どもが、家庭や地域で、家族と供に主体的に育ち、発達(成長)するために、育ち上の課題を把握、理解しながら、支援すること

発達支援現場では、  
 発達支援を必要とする子どもと家族に対して、身近な地域(生活)で、子育てをベースに、専門的な支援や相談、地域作り(地域療育)を推進している  
 支援の3つの要素 → **子ども、家族、地域**への支援



**<発達支援の要素>**



- ・子育て支援
- ・本人支援(アセスメント、個別支援計画、実践、モニタリング等)
- ・家族支援(親相談、メンタルヘルス支援、きょうだい支援等)
- ・生活支援(福祉制度・サービス活用等)
- ・地域支援(技術向上、人材育成、機関連携、システム整備等)
- ・人権擁護
- ・その他(情報公開、コンプライアンス等)

参考:医療モデル:療育(治療教育),社会(生活)モデル:発達支援

### 「療育」から「(児童)発達支援」へ

医療モデルから社会(生活)モデルへ

モデル=概念・認識・考え方

	医療モデル:「療育」	社会(生活)モデル:「発達支援」
障害の原因	病気・外傷等から生じるもの	不適切な社会環境
責任の帰属	個人	社会全体の責任
対処	障害の改善・個人の努力による軽減・訓練による改善等	社会参加を目的とした社会的行動の獲得
目標(課題)	医療的技術の向上による障害克服	人権擁護・共生社会
* (イメージ)		


(2016CDS-J全国大会:宮田発表資料一部改訂)

障害があってもいい...、地域で健やかに育ち、豊かな人生の主人公として生きることが大切。「発達支援」とは、その営みを支援すること。(経路聖マリア病院 宮田)


## 発達

周囲の特定の人との**安心感(基本的信頼感)**を基に、**子ども(資質・特性)**が、子どもを取り巻く周りからの働きかけ(発達支援・環境調整)を取り込んで、**自信をもって、現在の姿からより新しい姿を変わること。** (個人と環境の相互作用)

資質(遺伝的要素) ⇔ 環境(社会文化的要素)




**安心感(意欲)**



7


## 子どもの発達の普遍性 (原理)

- ・ **基本的信頼感の獲得=発達の土台作り**
- ・ **発達の順序性**—同じ発達の道筋を歩む
- ・ **発達の方向性**—中心から末端へ、頭部から尾部へ
- ・ **発達の相互の関連性**  
—それぞれが関わり合って、意味をもち、変化していく




6

### 子どもの発達の普遍性 (原理)

- **発達の源は親との信頼感 (安心感) から育っていく = 発達の土台作り**  
 子どもは親(主に母親)との安心できる関係を通して、相互の一体感、信頼感を生み出し、情動の共有を基盤として、次の遊びへの期待感を抱き、遊びを広げていく。  

- **安心感(自己肯定感) → 自己主張 → 自己選択(情動調整)**
- 初期の関わりでは、親や担当者は子どもの要求をできるだけ受け入れ、付き合い、親(担当者)と一緒にいることの楽しさを体験する。
- 親(担当者)は自分にとって「必要な人」「大切な人」という意識を育て、「心の支えとなる人の形成」を促す(情動の共有)。
- その後は、要求を満たす関わりから、色々な遊びや活動を一緒に楽しみ、相互のやり取りがスムーズにできるように、じっくり、ゆっくり関わり、大人側の価値感を伝え、関わりを重ねる。

9

### 発達の際になる子どもの関係性形成の困難さ

1. **関係性形成の困難さ**
  - 人への志向性の乏しさ一人よりも物への関心が高い
  - 人を求めるアタッチメント行動の発信の弱さ  
 ー子どもからの信号発信が弱く、わかりにくい 
  - 情動共有の成立の困難さー注意や行為表象の共有の難しさ
  - 場面適応の困難さ  
 ー感覚過敏や不安、注意の転導等により場面確保が困難
2. **関係性形成への支援**
  - 母子(親子)間の安全基地の形成  
 ー工夫しながら、安心感のもてる関わりの強化、積み重ね
  - 早期からの親子関係への介入  
 ー楽しく遊ぶこと、ふれあい(情動共有)遊びの重要性

10

### 困り感の理解

**困り感**

彼らを、私達の視点から「困った子」ではなく、彼らの視点から「困っている子」であると、支援者側がこれまでとは異なる視点で彼らを理解することが大切である。

「困った子」  
(困った感)

➔

「困っている子」  
(困り感)  
= 支援が必要な子

- 「対処」「指導」よりも、まず「理解」すること
- 通常とは違う感じ方や考え方もつ子として理解する。  
 → 人との違いを頭ごなしに否定されると、自信をなくする。  
 → 根性や努力で改善する部分は少なく、本人の困り感の理解から、必要な支援がみえてくる。

11

### 子どもの発達の特徴の把握(発達評価)からみた支援


- その子の出来ない部分(未獲得な部分)の引き上げ(アプローチ)だけではなく、発達の各要素の関わりを大切に支援する。

(例)

縄跳び	→ ジャンプ練習(?) : 意欲、空間認知力、目と手の協応動作、模倣、協調運動等
文字の習得	→ なぞり書きの繰り返し(訓練?) : 文字を使ったコミュニケーション意欲、理解力、文節の理解、模倣、協調運動、手指操作等
文章題の理解	→ 文節カードを並べ直す(訓練?)、何度も文章を読み暗記する : コミュニケーション意欲、文字の理解(読みと表記)、文節の理解(語の意味理解)、イメージ力、集中力等

- 現在の発達状況(段階)を把握し、「できること」「できかけていること」をきっかけにして、発達の一步前の活動(必要な援助の内容)を細かいステップに分けて、積み重ね、成功体験を重ねる。


例えば: 6歳の男の子に、「お絵描きの準備をしてほ伝えた時...」  
 (特徴: 発達年齢3歳、視て操作することが得意) → どんな準備と支援が必要?



- 伝えた内容が分かり易く、見通せたかな?  
(具体的に、視覚的手掛りがある指示...)
- 周りに応援する人、モデル(仲間)がいるかな?
- 人に関心をもって、視て、聴いていたかな?
- 不安や分らない時、親や大人を頼るかな?

「できた!」という体験やほめられる体験が重なると、自分から「もっとやってみよう!」という気持ちが生まれ、育ち、色々なことにチャレンジし、意欲的な子どもになる。

12

**発達の診かた（発達の評価）** 

子どもと周囲との相互作用によって得られた子どもの状況を**発達過程に位置付けて、その意味付けを行い、発達上の課題を明らかに**すること。

さらに、**発達の一步前をいく活動の整理と準備を行い、発達の観点から支援を行うこと。**

(行動観察、検査、聴き取りによって得られた情報を整理し、それぞれの発達の関連性について考え、全体像を把握する。そして、発達を促す手立てをみだし、支援する。)

↓

発達(本人)支援 13

**発達の診かた**

**発達状態の分析**

ア,社会性の育ちが発達過程のどこに位置するか  
—自尊心, 情動, 関係性

イ,現在の発達が発達過程のどこに位置するか、差があるか(遅れや出来過ぎさをみる) —個人間差

ウ,領域間の差やつまずきの内容、相互の関連性はどうか(認知様式の偏りをみる) —個人内差

エ,未獲得な部分ではなく、「できること」「できかけていること」を基本に整理する —発達到達点

オ,発達に影響をおよぼす**生活環境の分析**. 14

**発達の診かた—全体像の把握**

子どもの特徴の理解 = アセスメント  
(どんな子で、好きなこと、苦手なことは?)

↓

**○発達状態の把握(分析)**

- ・発達の土台の安定=信頼感(安心感)
- ・発達段階の把握  
(発達の順序性,方向性,相互の関連性からの理解)

**○発達特性の把握**

- ・社会性の育ち=自尊心, 情動, 関係性
- ・個人間差と個人内差の把握
- ・生活環境の分析
- ・発達経過(歴史)の把握

15

**発達の診かた—具体的関わりと配慮点の確認**

遊びの工夫と分かり易い生活場面の配慮  
(自信をもって心が安定し、遊びを楽しむ)  
(安心して、ゆったりと過ごす)

↓

**○発達段階に応じた活動の工夫**

- ・受け止めて誉めて、認める関わり
- ・手や体を使う遊び
- ・やり取りをする遊び(コミュニケーション)
- ・生活を豊かにする活動(身辺等)

**○育ちや発達特性に応じた配慮**

- ・分かりやすいコミュニケーション
- ・安心して生活しやすい環境

16


(参考) 全体像の把握と具体的関わり

	取り組みの柱	基本視点	内容(取り組み)
3つの支援	心の支援	発達の土台の安定 =信頼感(安心感)	・受け止めて誉めて、認める関わり : <b>どんな遊び?</b>
	遊びの支援	・発達段階の把握 ・個人間差と個人内差の把握	・手や体を使う遊び ・やり取りをする遊び(コミュニケーション) ・生活を豊かにする活動(身辺等) : <b>どんな遊び、配慮?</b>
	生活の支援	・生活環境の分析(基本情報の整理)	・安心し生活しやすい環境(家族支援、地域支援) : <b>どんな遊び、配慮?</b>

17

### 子どもの育ちの支援(発達支援)

- ・ **様々な角度から子どもを理解することが大事**
- ・ 行動観察(行動の意図や前後関係をよく観察する)
- ・ 情報共有(知り得た情報を共有する)
- ・ 環境把握(子どもが置かれている状況を知る)



- ・ **発達支援を行うには、子どもの心と発達の状態及び特性を理解することが大切**
- ⇒ 健やかな心の成長と得意な部分と苦手さ・困難さを把握する
- ・ **子どもの苦手さ、困難さがわかると、支援の必要な部分がみえてくる**
- ・ **子どものできる部分がわかると、それを活かした支援ができる(褒め、認める関わりを大切に)**

18

### 事例-A君 (ケース内容は一部加工、修正している)

□A君: 5歳、幼稚園年長、男児。(健康状況良好)

□問題: 自分勝手に振る舞い、暴言を言う、

□発達特徴:

0~3歳代-0~1歳代、運動や言語(始歩10ヶ月、始語12ヶ月)の発達良いが、人見知り弱く、マイペースな関わり、一人遊びが一部ある。2歳からマークやミニカーに関心ある。ゲームが好きで、集中する。両親の遊びでの関わりは少なく、本児は一人遊びを続けていた。

現在5歳。言語や身辺は年齢相応。遊びでは特定の子と遊ぶ。自分勝手な行動、落ち着きの無さある。相手の気持ちに応じること不得意。制作やブロックでの遊びを好む。自分の気持ちの表現が苦手。思いが通らない時、奇声を発し、物投げ、暴言を発する。また、気分の変化有り、職員を一方的に指摘(暴言)したり、強く甘える姿ある。車への関心高い。運動遊び好む。

□家族: 両親(父:会社員、母:パート事務)、弟(2歳)の4人家族  
 父: 可愛いがるが、厳しいことを一方的に言うタイプ。  
 母: 優しく接するが、いつもせっかちに関わり、また感情的になるタイプ。  
 弟: 本児と似た特徴ある。一部自己中心的、癩癪ある。

19

### 幼稚園の見立て: 対応

○自分勝手に振る舞い、暴言を言う

①周囲の人の配慮を受けながら他児とのやり取りを体験し、関わり方を学ぶ(ソーシャルスキルの獲得)

- ・ 少人数の活動で、要求を相手に伝えたり主張すること、相手の意見や思いを聞いて対応を考えること、活動ごとに自分や他者の行動を話題にして望ましい振る舞いを確認する。
- ・ 適切で良い行動を行なった時に、しっかり誉める。

②相手の表情、仕草の意味を理解することや相手は自分とは異なる意図(気持ち、感情)をもつことに気づき、理解する

- ・ 絵や図等の視覚的な手掛かりを用いて、表情や仕草の意味を伝える。場面ごとに相手は、どんな気持ちをもつか具体的に伝える

20

### ケース会議での：論議（助言）

**○どこに注目するのか**


- ・「自分勝手な行動や落ち着きの無さ等」と「気分変調や一方的指摘と甘え等」のそれぞれの行動の意味
- ・生育歴から発達上の特性の有無と現在の発達特性
- ・親子関係、こころの成長段階 等

**○A君の困り感**

- ・発達特性
- 状況を理解し、どのように振る舞うのか、わからない。
- ・こころの成長の不十分さ
- 安心感、基本的信頼感の獲得の弱さ
- 素直に自分の思いや気持ちを表現できない(自信の無さ)

**○対応：本児自身が周囲から誉め、認められ、自信をもつ**  
居場所の確保(甘え、安心でき、あこがれるモデルの存在)  
親支援、きょうだい支援等 21

### 乳幼児期の発達支援で必要な視点：大切なこと

**○最初の取り組みは、親子間の安心・安全感(信頼感)の育成を支える** 

- ・乳幼児期は、安全感や人への基本的信頼感など発達の土台を作る大切な時期である。
- ・家族や人から受容され、仲間との関わりを体験し、安心感、自己肯定感を獲得する。

**○発達の道筋(発達段階、課題等)に応じた支援により、“生きる力”を獲得する**

- ・アセスメントを通し、発達段階や特徴に応じた課題を明らかにし、日々活動を重ねる。
- ・生活場面を通し、心身の成長や変化を促す(生活リズム、健康な身体、情緒の安定等)。
- ・将来を見据えた適応的なスキルを獲得する。
- ・また、関わりや環境の調整を行い、生活上の生きづらさを調整していく。

**○遊びを中心とした色々な体験を積み重ねる**

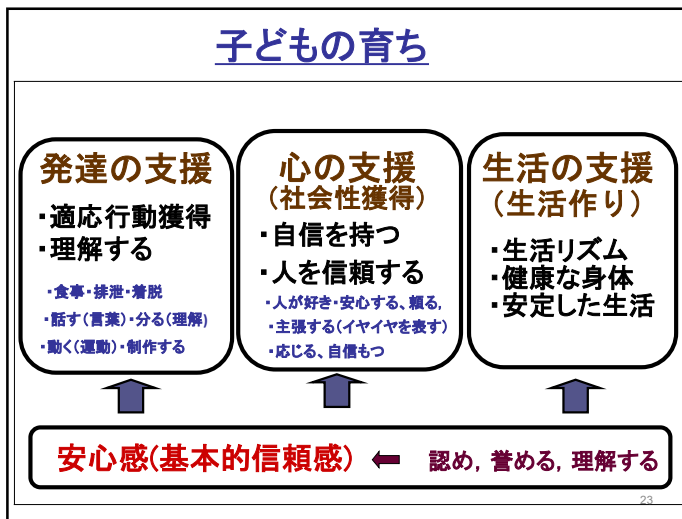
- ・子どもの活動の中心は遊びであり、遊びを通して喜びや驚き、新しい発見等を重ねる。

**○保護者(親)や家族への心理的、生活的支援を行う**

- ・不安と混乱が長期間続く保護者やきょうだいに対して、心理的特性に応じた支援を行う。
- ・安定した家庭生活が営めるように、経済的、福祉サービスの支援を行う。

**○地域の関係機関が相互に連携を取り、適切な支援を家族に提供する**


- ・適切で専門的な支援が、身近な地域で実施し継続されるために、各関係機関が効率的にネットワークを組織し、地域におけるシステムの構築を進める。
- ・発達の観点と幅広い専門的知見をもった職員の養成(資質の向上) 22



### 夢をもつ子どもの育ちを支える＝発達支援

身近な地域で、優しく包み込む大人や仲間(社会)に支えられ、子どもが安心と自信をもって、地域で人生の主人公になって、生き生きと家族とともに、夢をもって、大きく羽ばたくことを願います。

その中で、私たちは発達の観点から、その子どもの困り感を理解し、多面的に捉え、成長を支援します。



24